

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700493		
法人名	社会福祉法人あさぎり福祉会		
事業所名	グループホーム朝霧	ユニット名	新館
所在地	宮崎県都城市山田町中霧島2531番地1		
自己評価作成日	平成26年10月3日	評価結果市町村受理日	平成26年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon:true&amp;id=4571700493-00&amp;PrefCode=45&amp;VersionCode=022">http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon:true&amp;id=4571700493-00&amp;PrefCode=45&amp;VersionCode=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年10月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員と利用者で協力しながら、食事の準備・片付け、掃除等を一緒に行っている。  
 ・ご家族と職員の信頼関係がよく、ご協力を頂き、利用者様を職員と共に支える姿勢がある。  
 またご家族のご協力が多く、病院受診・散髪をして頂いたり、外出・外泊もして下さっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員と利用者の関係に、温かさ、親しさがあり、いろいろな機会ににぎやかな笑いが起こるホームである。男性職員も優しく介護を行っており利用者に慕われている。感染症対策は徹底しており、加湿器にも消毒液が含まれ、手の消毒もこまめに行われている。利用者には後ろから声をかけないなどの介護の基本が生かされている。利用者一人ひとりの個性に配慮をし、名前の呼び方も話し方もその利用者に合わせている。本館の玄関の外には、木うすと挽きうすが置かれており、年配の人には懐かしさを感じさせるものとなっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	新館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や食堂にホーム独自の理念を掲げてあり、毎朝、朝礼時に唱和を行っている。理念に沿うように取り組んでいる。		交流を図りながら、地域の方に認知症に対する理解を深めることを理念に含めて、支援につなげている。介護の理念も分かりやすい文言で、職員も理解している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の公民館に加入しており、夏祭り・文化祭での交流はあるものの、日常的な交流は少ない。		地域の行事に参加するだけでなく、ホームがどのようなものかを説明している。食材は地元のお店から調達し、近所の温泉や商店、理髪店等も利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーの方々や利用者のご家族には行っているが、地域の方に向けては行っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。ホームの状況報告を行い、また、色々な意見を頂いている。運営推進会議で施設側と民生委員の方々との話し合いの場を持つよう提案を受け、実施した。		内容も充実しており、そこでなされた提案を実行している。管理者は議題を案内状に記すなど、意見が活発になるように模索中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際、報告を行っている。		山田町支所の担当者も変わり、書類提出で終わっている。	支所に出かける際は、書類提出で終わることなく、相談事など積極的に情報提供を行い、ホームの実情等を知ってもらい、緊密な関係を築くことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、介護職員会議を行い、利用者に合ったケアを考えている。見守りを十分に行い、身体拘束をしないケア・支援を行っている。		身体拘束をしないことの意義等を勉強会で話し合い、職員の理解を高めている。実際に拘束はなされておらず、玄関も常時開錠されている。本館では見守りが難しい時のみ、テラスの施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修や介護職員会議にて勉強会を行い、虐待がないよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	新館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の際に地域包括支援センターの方に制度について教えて頂いたが、一般職員には行っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時など、入所前にある程度説明を行い、質問や不安があれば十分に聞き答えている。また、契約時に意見や要望を聞いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、家族会総会時や行事等の際に、意見や要望、提案を聞いている。		家族と利用者、職員参加の家族交流会や職員と家族の家族会総会時等に、意見や要望を聞く機会を設けており、利用者のATM利用方法に関して、要望が生かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護職員会議の中で意見を聞いたり、年末には職員調書を行い、意見や提案を行っている。		職員が、管理者に意見や要望を言いやすい関係ができており、また、利用者への対応の仕方について、職員間で介護のやり方に意見が違ふときなど職員間でよく話し合い、意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非正規職員については、登用試験を受ける機会を設けている。賞与については人事考課制度を取り入れている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数に応じて、力量を見ながら計画的に外部研修を受けている。また、外部研修の復命書回覧にて、自己研鑽に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修に参加し、他の事業者と交流する機会を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	新館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接調査を行い、ご本人の要望や困っていること等を聞いており、ご家族からもしたら安心するかを聞いている。また、統一したケアを行えるよう、入所前には全職員に情報を報告している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入所前の面接調査時に、ご家族の不安や要望を聞き、ご本人にとってどうしたらご本人が安心して生活出来るかを話し合っている。また、統一したケアを行えるよう、入所前には全職員に情報を報告している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接調査時の情報を基にアセスメントを行い、その利用者にとって、今、何が必要であるかを考えて、ケアプランを作成している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみなど、出来ることをして頂いたり、昔話を聞いたりして、共に支え合う関係を築いている。また、世間話だけでなく、職員が悩み事などの話をする事で、利用者が職員を励ます姿も見られている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外出の支援をお願いしたり、誕生会や夏祭り・敬老会等の行事に参加して頂くことで、絆が絶えないようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を頂き、お墓参りや一時帰省等をして頂いている。また、デイサービスへ訪問を行い、知人と交流して頂いたり、自宅周辺へのドライブなどを行っている。	家族や職員同行の墓参り以外にも、入居以前から利用していた商店などに共に出掛ける支援もなされている。利用者の知人と会う機会も設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で服を整えてあげたり、下膳を手伝ったりする姿が見られている。利用者同士の相性を考慮しながら、食事の席や一緒に外出するメンバーを決めている。また、手伝いやレク時はトラブルが起きないように、職員が間に入り配慮・対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	新館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要で退所される場合など、受け入れ可能な病院を探したり、居宅事業支援所の紹介をしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時に、ご本人に希望・要望を聞いている。また、自宅で生活していた頃の背景を大切に、ホーム内でも出来ることをケアプランに取り入れている。		毎日の記録を活用し、思いを把握する支援がなされている。表情、声かけへの反応などの記録から原因を見だし、思いをつかもうとしている。言動から察したり、要望や思いを知り、支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人やご家族から話を聞いたり、利用されていたサービスがあれば、その事業所の方等にも話を聞き、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常観察を行いながら、介護職員間で情報交換を行い、現状把握に努めている。また、一人ひとりの個別の支援経過記録や業務日誌・申し送り簿を活用しながら、小さな変化等の把握にも努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常時、職員間での情報交換・対応の検討を行っている。ご本人・ご家族より意見や要望を聞き、ご本人と関わる職員と必要なケアについて話し合い、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。		毎月、計画に対しての評価検討を行い、3か月のモニタリング、6か月の見直しと計画書の作成を、関係者の意見を取り入れて行っている。状態変化や家族、利用者の意向、希望により、随時見直しもし、計画書の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践記録や日々の様子を個別の支援経過記録・業務日誌・申し送り簿に記録をし、次の介護計画に活かしている。また、小さな変化も記録して、職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診やお墓参り・買い物等、利用者やご家族の希望や要望があれば行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	新館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりが薄く、地域交流が不十分である。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・ご本人の希望を尊重し、かかりつけ医のある方にはかかりつけ医へご家族や職員で受診を行っており、かかりつけ医がない方へは協力医の受診を行っている。1ヶ月・3ヶ月ごとに必ず受診を行い、上申・相談を行っている。	かかりつけ医、協力医受診も家族同伴の場合には、文書を家族を通して医師に提出してもらっている。職員同行の際は、口頭での報告を医師に行っている。受診後の報告も家族から得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいない為、受診時に日々の様子を報告したり、異常があればかかりつけの病院に連絡し、相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、面会に行き、ご家族・医師・看護師と相談し、早めに退院が出来るよう話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは行っていないが、今年度中には医療連携を取り入れ、ホームで終末期を迎えられるよう取り組んでいる。また、面会時などに随時、利用者の状態を報告し、ご家族にも現在の状態把握をして頂いている。	終末期の看取り対応に向け、調整中である。協力医が変わったこともあり、協力医との話し合いもこれからである。入居時や変化が生じたときには、現状でのホームの実情を含め、話し合いを設けて支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護職員会議の中で勉強会を行い、緊急時に備えており、マニュアルも作成している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回防災訓練、年2回総合防災訓練を行っており、災害対策に努めているが、地域との協力体制は出来ていない。	夜間を想定した避難訓練や地震想定、夜間通報訓練などが行われている。消防署が立ち会い、実際的な提案や方法などの指導は得ていない。地域住民との協力関係もこれからである。	近所の住民や温泉施設との協力関係を築いていくことや消防署の指導を受けることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	新館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時や更衣時などは、カーテンや扉を閉めてプライバシーに配慮している。また、人生の先輩である事を尊重しながら、一人ひとりに合った声かけを行っているが、子供扱いした言葉を掛けてしまうことがある。		利用者と職員の仲が良く、時には、声かけが利用者を抑制してしまうこともある。管理者が勉強会で取り上げたり、職員間でもふさわしい声かけを提案しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な自己決定を促すも、皆と一緒にいいと言われる事が多い為、個別で着たい服等を選んで頂いている。日常会話や回想法などで本人の思いや希望を聞き、行きたいところやしたい事があれば、出来るよう取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク等を促す際に、拒否が見られた際は、別な事をして頂いたり、順番をずらすなど希望に添う対応をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服や行事の際の服選びをして頂いたり、髪染や散髪の支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には野菜の皮むき・野菜切り・盛り付け・テーブル拭き等に参加して頂いている。食事は、必ず一緒に職員も食事をしている。食後は片づけを一緒に行い、茶碗洗いやトレイ拭き等、その方にあった手伝いをして頂いている。		各ホームで料理を作っている。職員は、利用者と同じメニューを同じテーブルで会話をしながら食べている。利用者には、洗い物やお盆拭き、テーブル拭きなどに参加してもらい、有する能力を発揮してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立に沿って、食事を作っている。一人ひとりの状態・嚥下状態に合わせた形態で提供を行い、食事摂取量が少ない方へは栄養補助食品を提供し、水分摂取が少ない方へは好まれる物を提供するなどの工夫をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後・毎食後に口腔ケアを行っている。毎食後は、義歯を預かり、洗浄剤に浸けている。口腔ケアをご自分でされる方には、見守りを行い、不十分な場合は介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	新館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄パターンの把握に努め、ご本人からの訴え時はもちろん、時間毎に誘導を行い、トイレで排泄が出来るよう支援している。	一人ひとりの排せつチェック表を活用し、昼間は車椅子の利用者も含め、全員トイレ誘導を行っている。夜間帯は、数人のオムツ使用以外はポータブルトイレかトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便チェック表を活用しながら、スムーズな排便が出来るよう、水分摂取の促し・食物繊維の多い食事提供・乳製品の提供・毎日体操を行い、排便コントロールを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月・水・金と入浴日は決まっており、入浴の順番もトラブルにならないよう配慮している。入浴拒否が見られたり、入浴日以外の日に希望があった際は、順番をずらしたり、本館に協力を得て、いつでも入浴出来るようにしている。	各ユニットとも、曜日は異なるが、午前と午後に入浴が可能であり、柔軟な入浴支援が行えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動で疲れが見られた際は、昼夜逆転にならないように注意しながら、昼寝や休息をして頂いている。また、夜間帯に眠れない方には、日中に散歩などの活動をして頂き、夜間ゆっくり眠れるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を活用し、個々の利用者の服薬状態の把握に努め、薬について疑問がある際や異変時は副作用を疑い、医師や看護師・薬剤師に相談している。また、服薬時は、職員間で名前の2重チェックを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力やレベルに応じた家事手伝いやレクを促し、参加して頂いている。また、散歩や外出・外食を行うことで、気分転換をして頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の希望がある際は、外出や買い物・ドライブを行い、外出支援を行っている。訴え時に行えない時は、後日対応している。ご家族対応にて、外出される方もいらっしゃる。	職員が付き添い、散歩、買い物へ出掛けている。敷地内のデイサービスの知人に会いに行く利用者もいる。ゲートボール観戦、温泉施設に職員と出掛け、ソフトクリームを食べたり、遠出のドライブ支援も行われている。		



自己	外部	項目	自己評価	新館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常時、お金を所持しておられる方は無く、お金は事務所で管理している。出来る方には買い物や病院受診の際、職員の見守りの下、支払いをして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があった際や送り物が届いた際は、電話をして頂いている。また、年賀状を書いて頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂などに、季節の花や創作活動で作った物を飾ったり、温度計を活用しながら快適に過ごせるよう、空調管理を行っている。また、毎日掃除を行い、不快なく過ごして頂けるよう努めている。	玄関には季節の花が、廊下等には季節感あふれるちぎり絵が飾られている。本館にはソファが各所に置かれており、利用者がくつろいだり、昼寝をしたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上、共用空間・一人になれる居場所が限られている為、ゆっくりと過ごせる場所が少ない。利用者同士トラブルがないよう配慮しながら、利用者同士で過ごして頂いている。一人になれないが、逆に一人になると不穏になられる方が多い為、特に行っていない。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物は少ないものの、居室にソファを置いたり、自宅で使用していた寝具、家族の写真などを飾るなどしている。	全体として、居室の中は家族の意向もあり、物が少なくシンプルである。位はいやソファ、写真などの小物を持ってきている利用者がほとんどである。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体はバリアフリーであり、トイレや浴室等の場所表示を行っている。			